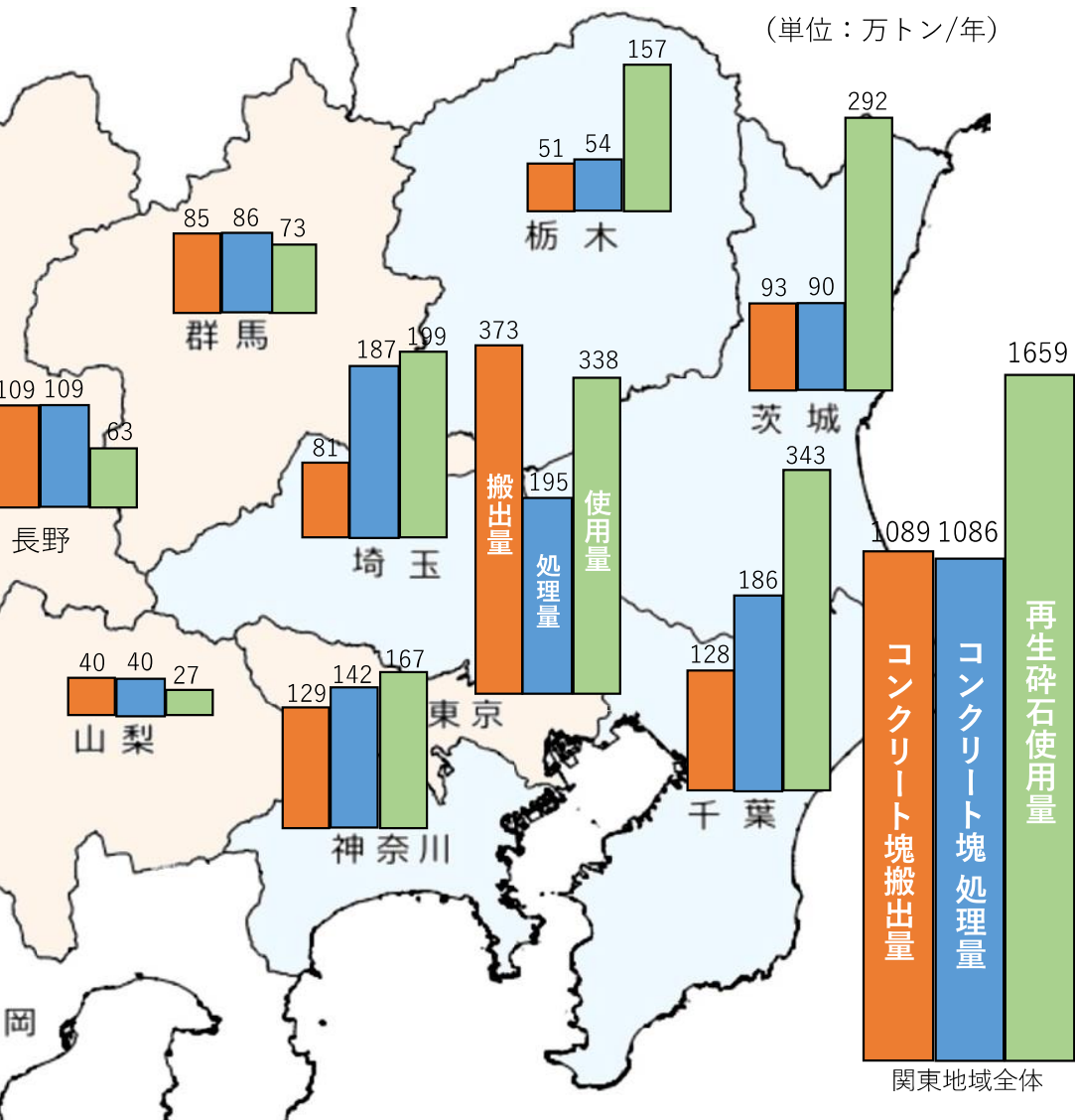


第18回 建設リサイクル推進施策検討小委員会

東京都におけるコンクリート塊の資源循環について

令和 7 年 1 月 2 9 日（水）
東京都 都市整備局

コンクリート塊の資源循環の現状について（H30建設副産物実態調査（国交省）より）



東京都の内訳

土木・建築	土木							建築				東京
	公共					民間	計	新築等	解体	修繕	計	
	国	法人	都	区市町村	計							
C o塊搬出量	2	7	40	21	71	17	87	115	168	3	286	373
再生砕石使用量	96	7	84	59	247	19	265	61	12	0	73	338
差	-93	-0	-44	-38	-176	-2	-178	54	157	3	213	35

- ◆ 都内ではコンクリート塊搬出量の方が多い
 - ・主に建築工事由来のコンクリート塊が過剰
 - ・再資源化施設に再生砕石等が滞留しており、受入れを制限している状況と想定
 - ・都内で発生したコンクリート塊の約半数は近隣県へ搬出
- ◆ 搬出量に対して使用量が少ない地域は滞留状況が発生する可能性あり
 - ・今後、他地域でも東京都と同様に滞留が発生する可能性がある

コンクリート塊の資源循環における現状の取組

◆現状の取組

- 東京都建設リサイクル推進計画に基づき、コンクリート塊の資源循環を推進
- 東京都環境物品等調達方針において再生砕石や再生骨材コンクリートなどの使用を推進
- 東京都建設リサイクルガイドライン（民間事業版）において、民間事業者の方々に対しても建設リサイクルの推進への積極的な取組について協力を要請

⇒ しかし、再資源化施設に再生砕石等が滞留し、複数の課題が生じているとの声あり

≪ 関係業界へのヒアリング状況 ≫

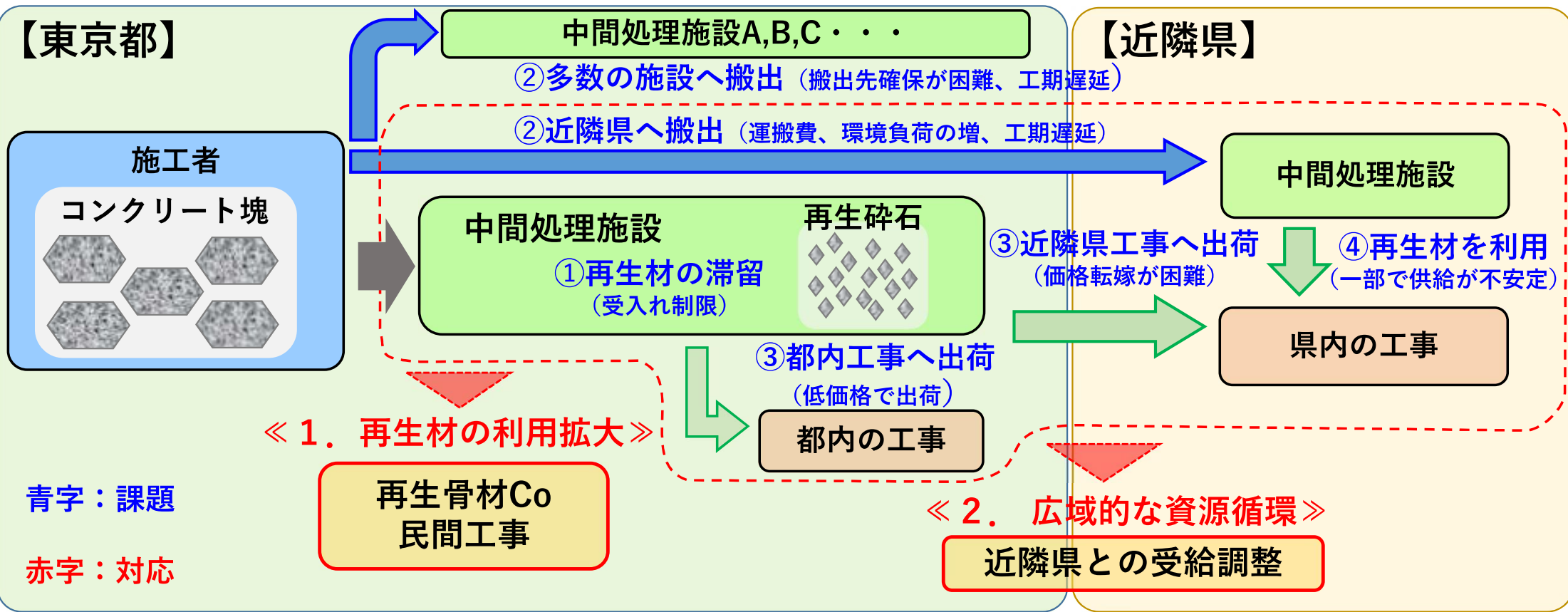
【滞留の現状について】

- ・ 東京近郊でも同様の状況が発生し始めている状況
- ・ 中間処理プラントは再生材の在庫を減らすため、価格を下げて少しでも出荷量を増やしている状況
- ・ 近隣自治体の一部の地域では再生材が不足している実態あり

【取組みについて】

- ・ 再生材について、民間事業者は品質面などにイメージとして不安があるため使用に消極的
- ・ 再生骨材コンクリートの供給体制に課題があるため積極的には活用していない
- ・ コンクリートの製造プラントの多くは敷地的な余裕や需要の見込みがないため製造に消極的

コンクリート塊の資源循環における課題について



- 資源循環の過程で複数の課題が生じていることを把握
- 中間処理施設に滞留する再生材に対する需要が必要 ⇒ 「1. 再生材の利用拡大」
- 都内の中間処理施設への負荷を減らすことが必要
- 再生材の原材料が不足している地域へコンクリート塊の供給が必要 ⇒ 「2. 広域的な資源循環」

コンクリート塊の資源循環における今後の取組

◆今後の取組

OR6建設副産物実態調査などによりコンクリート塊の資源循環の直近の実態を把握することが重要

「1. 再生材の利用拡大」

①再生骨材コンクリートの利用拡大

【課題】 製造プラントが少なく供給量や供給エリアが限られている

⇒まずは公共工事における再生骨材コンクリートの使用実績を積み重ねることで供給体制の整備を促す

②民間工事における利用拡大

【課題】 再生材に対するイメージや品質面に対する不安があると想定

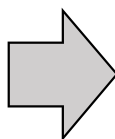
⇒特に再生骨材コンクリートの使用の促進に向けた働きかけの強化

「2. 広域的な資源循環」

③近隣県との需給調整

【課題】 地域間で需給ギャップが生じている可能性あり

⇒需給ギャップの実態把握（R6センサスの活用など）、都県をまたがる広域利用について課題の把握や抽出



取組をより早期かつ効果的に推進するためには、国や近隣県と課題認識を共有し、連携して取り組んでいくことが必要